

神経病理学的研究

高梨雅史・舟辺さやか

神経病理部門では脳神経内科で扱う疾患（脳、脊髄、末梢神経、筋肉疾患）を病理学的観点からアプローチします。

扱う検体としてはヒトの生検および剖検検体を用いて一般的な病理組織染色、免疫染色を使った特殊なタンパク質の病理学的評価を行い臨床病理学的な診断を行います。また、生検、剖検検体の一部は患者さんの承諾を頂いた上で凍結保存をし、タンパクやDNA、RNAなどの分子生化学的研究に利用できるようにストックをしています。

これにより、検体の病理学的検討としては疾患の病態に関するタンパク質に対して免疫染色（蛍光二重染色など）を行ったり、電子顕微鏡の手技を用いて実際のヒト脳組織に起こっている生化学的現象を視覚化し評価をします。これにより得られた知見から凍結検体を分子生物学的研究を行っているグループに提供し、病理学的研究と分子生物学的研究でコラボレーションすることにより、生体での病態をより詳細に検討していきます。

神経病理学は研究部門の中では古典的手法を用いますが、ヒトの生体で起きている病態を直接評価できる唯一の研究方法であり、最先端の研究技術へつなげていく入口でもあります。

興味ある方は是非お問い合わせ下さい。